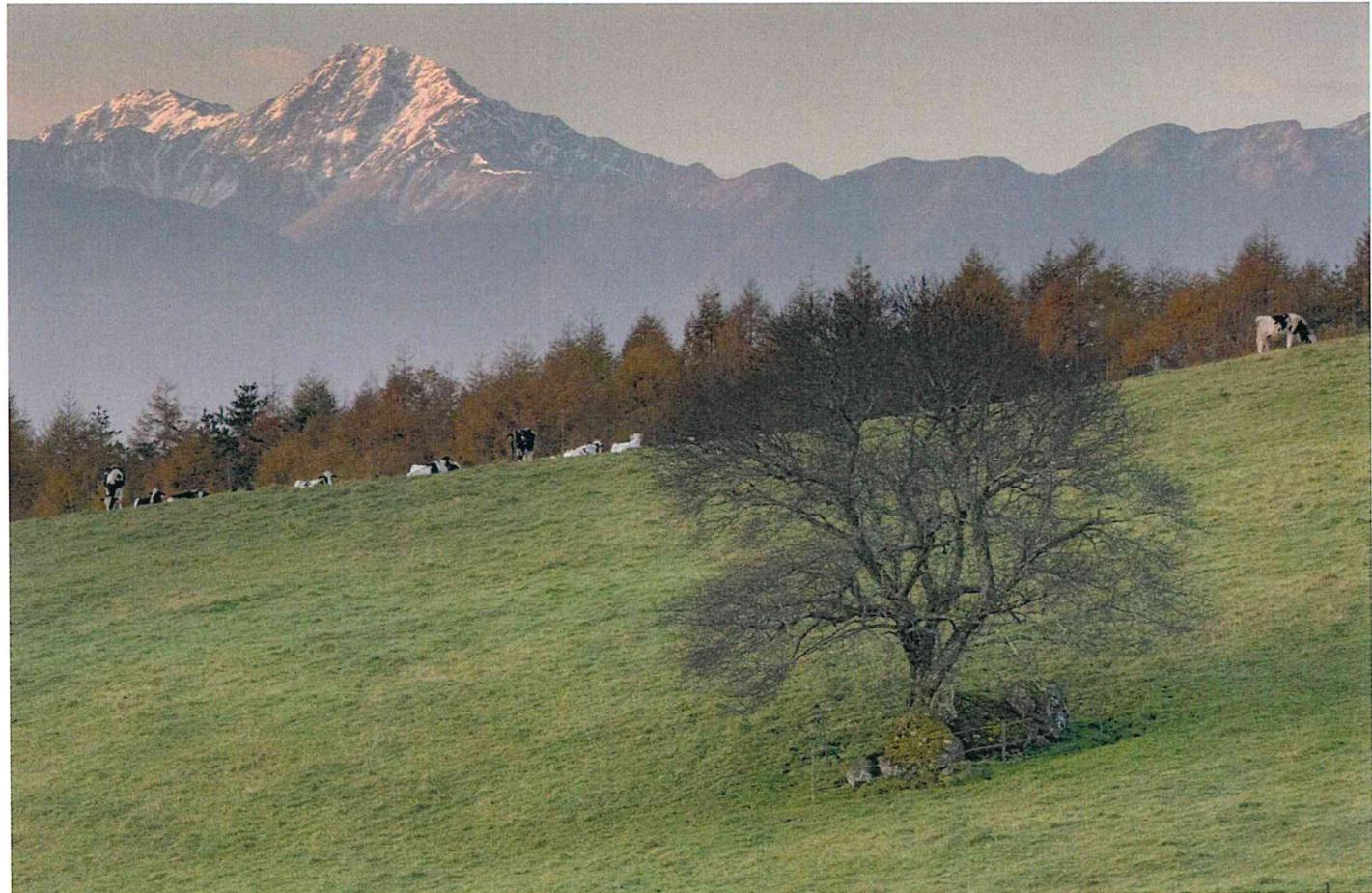


# だんだん便り

発行：一般社団法人だんだん会

責任者：宮崎和加子

第48号 2021年10月10日



## まきばの朝

広々とした牧場の奥にはこれを抱くように南アルプスが連なり、異国を感じる景色です。まもなく放牧の牛たちは山を下りる時期を向かえることでしょう。

からまつ会 小山 茂 (茅野市)

# グレーフホームわいわい白州・摩利支天



摩利支天

## 元気が出る運動会



9月に入り暑さが少し和らいできました。まだまだコロナウイルスの脅威があり、色々とお出掛けしたりできない中、この季節に欠かせない運動会を開催致しました。皆さん始まる前から何が始まるの?とワクワクドキドキされていました。皆さん最後まで楽しまれて、あ~楽しかったと笑顔が見られました。

職員 堤 健二

# わがままハウス山吹（支援付き共生すまい）

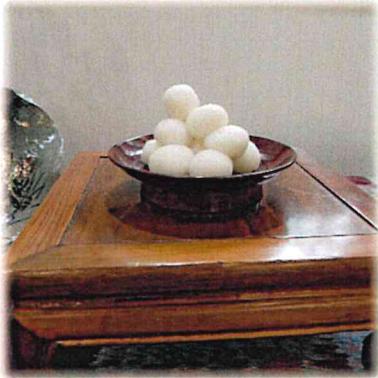
## お月見会をしました！！



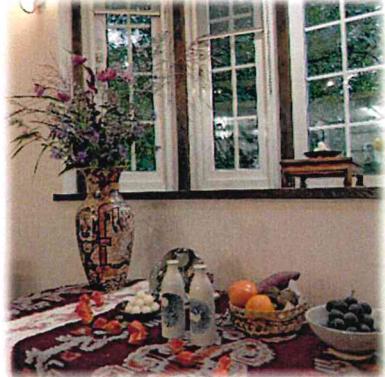
暑かった夏もようやく終わり、中秋の名月を皆さんと楽しみました。



さりげなく自然な感じに！



粉を丸めて手作りだんご



今年は中秋の名月と満月が8年に一度重なる  
記念すべき年でした。  
秋の虫の音も聞こえてきます。



入居者の皆さん、美味しい料理  
を堪能し、お酒も進み大変盛り  
上がりました！！！  
飲みすぎの方も何人か…  
楽しい時間でした。

(寄り添いスタッフ 池永・多賀)

## 歴史学者 色川大吉氏逝く

北杜市大泉町に長年お住まいだった歴史学者・色川大吉氏（96歳）が9月7日に永眠されました。市内の医療看護介護チームが、要介護になられてから最期までご支援し、お看取りさせていただきました。かかわった関係者からの声です。（色川氏の業績については、最終ページ参照）



96歳 歴史学者、自分史提唱  
北杜在住

山梨日日新聞 2021.9.8

### 色川先生との思い出



きよさと診療所 福富みづほ

3年半、訪問診療での素敵な思い出がたくさんあります。いつも少年のような眼差しで前を見つめ、茶目っ気のある笑顔で接していただき、心が温まる時間でした。

訪問時にはたいてい原稿を書いていましたが、その内容を丁寧に説明してくださいました。水俣病調査の集大成の原稿を書いていた時には、駆け出しの頃に水俣病の医療調査にボランティア参加した経験を話すと、話が盛り上がり、数時間も先生宅に滞在がありました。「水俣病が忘れられていく、知らない人もいる、きちんと残しておかなければなりません。でもこういう本は売れないから、どこか出版社も出版してくれないんですよ」と笑っていました。結局自費出版で「不知火海民衆史」を出版されました。私は上・下1組をいただきました。そんな風に先生の本を出版のたびにサインをしていただきました。私の本棚には先生の本がたくさんになりました。お亡くなりになる4日前に「沖縄と色川大吉」にサインをいただいたのが最後になりました。それぞれの本と共に先生の思い出があります。

コロナ流行前には春のお花見、初夏の蛍狩り、秋の焼き肉大会など、一人暮らしの先生を誘って、診療所スタッフと共に過ごした時間はみんなの心に残る大切な思い出です。

筆を提唱した歴史学者で東京  
経済大名誉教授の色川大吉  
(いろがわ・だいきち)さん  
が7日前2時43分、老衰のため北杜市の自宅で死去し  
た。96歳。千葉県出身。葬儀は密葬で行う。  
東京帝大に入学後、学徒時代に「明治精神史」を刊行、67年に東京経済大教授に就いた。

明治期の自由民権運動の広がりを示す「五百市憲法草案」が見られ、「自分史」執筆を提唱した歴史学者で東京経済大名誉教授の色川大吉(いろがわ・だいきち)さん(96歳)が7日前2時43分、老衰のため北杜市の自宅で死去した。千葉県出身。葬儀は密葬で行う。東京帝大に入学後、学徒時代に「明治精神史」を刊行、67年に東京経済大教授に就いた。

市民と共に地域史研究を進め、68年に農家の蔵から「五百市憲法草案」を発見した。草の根の社会運動の先例として著書などで紹介。「民衆史」のジャンルを確立し、権力におもねらない独自の歴史観を貢献した。一市民の立場で執筆した著書「ある昭和史」はその後の「自分史」、「日本はそれでいいのか市民連合」など社会運動にも從事し、リベラルな知識人として知られた。晩年は八ヶ岳のふもとの大泉村(現北杜市)に転居し、近隣住民のネットワークにより新たなコミュニティづくりに取り組んだ。

「明治の文化」「自由民権」「不知火海民衆史」など著書多数。「色川大吉著作集」全5巻がある。2008年は山梨日日新聞社から「八ヶ岳南麓の手くるぶ物語」を刊行し亡くなった9月7日には発行した三木謙編「沖縄と色川大吉(不二出版)」が遺書となつた。

II評伝19面 関連記事21面

# てくてく物語



## 大腿骨骨折からの復活！

アルプス居宅介護事業所 清水雪江

私がケアマネとして約3年半の月日を支援させていただきました。自宅内で転倒をして大腿骨骨折してしまいましたが、その後見事に復活なされ温泉旅行や生まれ故郷に旅行出来るほどになりました。かかわる中で一番印象に残る姿は「いつも机に向かい執筆をしている後ろ姿」でした。亡くなる1週間前まで、ご自宅での執筆活動が見られました。いつも前向きで、1冊書き終わると「次はこういうものを書きたい」としっかりとした意思を持たれ有言実行した姿は尊敬に値します。そのような方を最後まで自宅で支援できることは、ケアマネ人生として誇りに思います。支えるチームを作り上げられたことをご本人及びかかわった皆様に感謝するとともに、ご冥福をお祈りします。

## 内緒でいっしょに階段を降りたことも・・・

介護センター花岡 藤巻

2018年4月に介護用ベッドが必要とのことで紹介をいただいたのが色川様の担当としての始まりでした。ここ1年ほどは月に一度車いすの点検に伺っておりましたが、お昼でも手を止め「お願ひします」・「ありがとうございます」と丁寧なお言葉やお声がけをいただきました。

また腰椎圧迫骨折でまだ歩けない時に、地下の倉庫の資料を見たいから手伝ってくれとのことで、いっしょに内緒で階段を降りました。

50歳以上の年齢差があり悲惨な戦争体験のされた方が、私のような若輩者にも穏やかに接してくださいと、痛みがある身体でも執筆に対する熱意は敬服いたしました。

森に囲まれ静かに流れる時間の中で、お庭の景色の中で机に向かい執筆される姿をまだまだ拝見させていただきました。ありがとうございました。

## 一日3回、3年半

定期巡回てくてく24 西室徳子

色川先生の支援を担当して3年半。一日ほぼ3回の訪問でした。

先生との思い出はたくさんあり、泣き笑いの連続でした。担当したスタッフは10名弱ですが、それぞれ個性を発揮しながら先生と温かい時間を過ごさせていただきました。

「てくてく24」は介護看護一体型なので、「てくてく24」の看護職が中心となってお取りまでご支援させていただきました。亡くなる直前まで机に向かって社会に発信されている姿には感動です。先生の生きる姿勢・生き方にたくさん学びました。ありがとうございました。(詳しいエピソードは、次ページで)



## いっしょに庭の散策も

峡北シルバーケアホーム

リハビリテーション科長 竹中 悠

利用者様の最大能力を引き出す為に、私は「小さな変化に気付き、小さな目標を積み重ねる」リハビリテーション(以下リハビリ)を提供しています。色川様は私の信念を共感して下さり、リハビリを通して「一緒に動く」事ができた方でした。

立った中で右足に体重をかけるリハビリから始まり、順調に段階を経て、ベッド上での生活から食事や買い物、旅行に出かけるまでの生活になりました。訪問する度に笑顔で生活の様子を教えて下さり、冬の寒い日もお亡くなりになる1ヵ月前までも、自然豊かな自宅のお庭と一緒に歩きました。

色川様と一緒に動いて感じた事を今後の人生に活かしていきます。ありがとうございました。

# てくてく物語

## 色川先生の日常の様子・こぼれ話

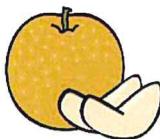
てくてくスタッフ：高瀬・伊佐地・立花・西室・坂本)

てくてくスタッフは、

## 色川先生のことが大好きでした！

### スタッフ同士のワイワイ会話

- ◆「もう、帰ろうとすると、用事がなくともよく呼び止めるよね」「ほんとね、私の時もそう」
- ◆「先生、もうすぐ食事ができますので、そろそろ洗面を・・・。と声をかけるのに、なかなか動いて下さらなく、食事ができてからやっと洗面所へ・・・。なかなか帰れないのですよ」
- ◆「先生は、美人さんが大好きでしたよね」「そうそう、美人の看護師や介護スタッフには、特別いい顔をするのよ。私などには・・・。ひどいよね！？・・・」
- ◆「DVDをよくご覧になっていましたね。たとえば、ジブリ、時代劇、戦争映画・・・」「それに○○も。とく△△シーンになると、目をパチリとして・・・」
- ◆「私は、自分の苗字・名前を呼ばれたことがなかったですよ」「私もそう。何度も訂正させていただいても、毎回別な苗字で呼ばれていましたよ」



昼食のことを伺うと、

「先生、何にしましょうか？」

「そうですね…チャーシューメンかチャーハンがいいですね。」いつも笑いながらこんな返事が返ってきました。

途中声をかけると、「あれっ？」こっくり、こっくり居眠りの時も・・・。



先生はお手紙が届くと、すぐに返事を書かれていきました。“筆まめ”というのでしょうか。

帰ろうとすると、「ちょっと待ってください。今からお礼のはがきを書きますから、投函してください」といつも投函係。



深夜1時に先生からの緊急電話。

「寒くなってきたので、2階にある布団を下ろしてください」

「？ そうですか・・・？。これから伺います。(ええっ、周囲にもちょうどいい布団を準備しているのに・・・)」

翌朝、「先生、夜中に布団を下ろしておかけしましたが、寒くはなかったですか」

「ええっ、そんなことを頼みましたっけ？ それありがとうございます」



その色川先生が原稿に向かうと、表情は一変し、近寄りがたさを感じるくらいでした。

やはり色川先生は学者なのだと、改めて感じる瞬間でした。

## 2人の「父」の死

「お義父さん、あっちに逝ったら私の父に娘は看護師としてよくやってますよと必ず伝えてくださいね」

義父はにっこり笑って「わかった。必ず伝えるよ」と言うってくれました。

令和3年9月7日義父は、息子に抱かれて静かに息を引き取りました。92歳の生涯でした。

牧師として全国の教会を飛び回って牧会生活を送ってきた義父。長男に嫁いできた私を実の娘のようにかわいがってくれたものです。21歳で実父と別れた私にはとても有難いことでした。

\*

私の実父は、42歳で脊髄小脳変性症という難病になり52歳で急死するまでは在宅で療養していました。発症当時私は中学3年生。国鉄職員として元気に働いていた自慢の父が、毎日少しづつ身体が動かなくなり歩くこともできなくなってしまった。「お父さんができることはこれくらいだから」と夏の炎天下、学校から帰るといざって庭の草取りをしていた姿は今でも忘れられない光景です。今にして思えば多感な時期で父にどうすればいいのか戸惑い、優しい言葉一つかけることもできなかった私です。「難病だから病気の勉強をしてお父さんの看病にまた帰ってくるから」と逃げるようにして夜行列車に乗って故郷の宮崎から遠く離れた大阪の看護学校に入学したのはもう、44年も前の話。看護師になりたいわけじゃなかった。

\*

病気の父を母にまかせっきりで3年間の学生生活を過ごしました。当時はまだ現在のように在宅療養に社会的な支援は皆無です。それでも母は仕事をしながら父を在宅で介護していました。

私の卒業式に出席するために父を1週間だけ病院に預けて母はやってきてくれました。そして卒業式を終えて夜行列車で帰郷。すぐに病院へ。「お父さん、卒業したよ。今日から看病するよ」卒業証書をベッドの上から見た父は「よく3年頑張ったな。でも看護師にはなるな。お前には向いてない」

地域看護センターあんあん 浅見玲子

その2時間後に父は急変して誰もいない病院の個室で、ひとりで、逝ってしまいました。

\*

「たったの一晩も私には看病させてくれなかった」あれからずっと看護師として働いてこれたのは、頑張っても頑張っても一番褒めてほしい人に褒めてもらえない天井のない毎日だったからとも言えます。

\*

義父は、92歳の誕生日を迎えてから少しづつ弱ってきました。老衰です。在宅では介護力がないため昨年からわがままハウスで支援を受けながら生活するように。そして「僕はもうすぐ逝くよ。もう十分生きた。ありがとう」が口癖に。そして10日間ほど寝込んで最後は支援者の皆さんにいっぱい愛されて亡くなりました。いつも間近で私の働きを見てくれていた義父はいつも「良い働きをたくさんしているね」と褒めてくれたものです。そしてほんの一時でしたが私が介護をさせてくれました。最後の日、夫と私は義父の最後の一呼吸を見せてもらいました。奇跡のような瞬間。

私はふと実父の言葉を思い出していました。「お前には向いてない」は実父の私への変化球エールだったのかも。きっとあの世で義父と実父は笑って手をとりあっているでしょう。

2人のお父さんの死は私の強い礎となりました。



# information

## 色川大吉先生の業績



山梨日日新聞 2021.9.8



寄贈していただいた手作りの鹿の親子

## 一般社団法人大んだん会

### <長坂事務所>

- ・法人本部 0551-45-9566
- ・地域看護センターあんあん 0551-30-7505
- ・定期巡回てくてく24 0551-30-7787
- ・訪問介護にこにこ 0551-30-7787

408-0035 山梨県北杜市長坂町夏秋 918-5

### <小淵沢地域>

- ・わがままハウス山吹 0551-45-6323

408-0044 北杜市小淵沢町 10123-2

### <白州地域>

- ・グループホームわいわい白州 0551-30-7566

408-0315 山梨県北杜市白州町白須 1023

### <オレンジ館（長坂上条）>

- ・オレンジデイほかほか 0551-30-7509

・リハ特化半日ディルんるん 0551-30-7509

### <オレンジサロン長坂・白州>

408-0021 北杜市長坂町長坂上条 436-4

(19) 社会 2版 (第三種郵便物認可)

「大衆は自分本位な存在で、大半は自分の利害で動く『愚衆』といっていい。でも、そんな彼らこそが歴史変革の原動力になるんですね」。7日死去した色川大吉さん(2014年にインタビューした際の言葉だ。社会の底辺の人々と伴走し、権力の横暴を指揮してきた歴史家ならではの表現が強く印象に残っている。色川さんの「民衆史」は自身の戦争体験から生まれた。20歳の時、海軍の特攻艇の基地で敗戦。身を寄せた農家が戦時中から床下に白米を隠していたことを知り、「減私奉公」を強いる権力に抵抗する民衆のたくましさ、したたかさに感銘を受けた。大卒後に1年ほど中学教師を務めた山間部では、「天皇」と呼ばれる

## 評伝 色川 大吉さん



インタビューに答える色川大吉さん  
=北杜市(2016年10月)

地主が小作農を搾取する実態を目の当たりに。近世以来の旧弊を改革しようと勉強会を主催、農家の若者たちの熱意に新時代の風吹を感じた。

貧しさや病苦と闘い、自身の戦争体験から生まれた雇い労働もしながら明治8年の「五日市憲法草案」

が誕生した時代に東京・多摩地区の農村に分け入り、

大学教員となり、1968年に「天皇を袁れんだわ

め半ばになるまで、なんでも半ばにならぬた

ます「天皇を袁れんだわ

真偽や眞意を裏ねた。

民団体「日本はこれでいいのか市民連合」で平和運動を展開し、自衛隊の海外派

遣や保守派による改憲の動きと対決。憲法解釈の変更で集団的自衛権の行使を容

認した安倍晋三政権についても「選挙で負けるから憲法には手を付けず、な

きにうんざり」と語っていた。

90歳を目前にしながら衰弱した行動派の知性は、心に戦

争の傷を抱えた情念の人で

いの顔で言った。

スキーや海外旅行を楽し

えの見えない思考が乱れた

た行動派の知性は、心に戦

争の傷を抱えた情念の人で

もあった。

## 歴史を紡ぐ民衆に伴走

厳しく追及し続けてきた色川さんが天皇の計報を聞き、涙を禁じ得なかつたとあり、

眞偽や眞意を裏ねた。

こんな「つまらない男」に

こだわってきたのか、自分

が無性に袁れに思えたんで

すよ」さらに「敗戦を知

らない人は理解できないで

しょうが、人生の曲がり角

曲がり角で涙が出るほど苦

労したんですよ」と泣き笑

80~90年代には、作家の

小田実さんらと結成した市

民団体「日本はこれでいい

のか市民連合」で平和運動

を行ひやないよ」と笑顔で断

った後、少し考えて「60代

の自由民権運動を独学。百發見につなげた。

北杜市(2016年10月)